

ひまわりの絆 ～ ゼロから始まった地域交流 ～

愛知県立名南工業高等学校

化学工業科 谷 欣也

1 はじめに

今回、私が携わってきた活動の原点は、担任として生徒たちの可能性を広げたいという思いから発している。平成 26 年度に初担任として、2 年生を受け持った際、工業高校の出身ではないため進路指導などに大きな不安があった。

そこで、私が得意とすることを生徒に還元することにした。それは、何事にもまず挑戦する姿勢である。資格の取得、コンテストへの応募、ボランティア活動への参加など、様々なものに挑戦するように促し、また挑戦しやすい環境を整えた。

ボランティア活動に興味のある生徒は多いが、地理的な条件などから消極的な言動が目立った。そこで、学校周辺で気軽に参加できるものがないか探し、かつ自ら開拓することにした。

まず本校の所在する愛知県名古屋市南区の歴史、地理などの特色を調査し、地域交流の構想を練った。その内容とは区の花である「ひまわり」の茎や種の有効利用をメインテーマに据え、リサイクルされずに捨てられているもの（乾燥剤・貝殻などの Ca、使い捨てカイロなどの Fe を含むもの）を本校で再生し、地域の学校などに配布する、またはものづくり教室などを実施するというものである。活動を通じて気軽に人々が集う場所（Ca・Fe＝カフェ）を提供できれば幸いだと思い、この活動に携わる人たちを「ひまわり Ca・Fe クラブ」のメンバーとした。

このプランを実現させるために地道な行動から始めた。近隣の住民と対話をする、関係各所に電話を掛けるなど足がかりを探った。その結果、偶然も重なり様々な協力者を得ることができ、貴重な体験をすることができた。

以下に、私が携わってきた 2 年間の活動についてまとめる。

2 活動実績

ア) ものづくり教室

名古屋市南区役所が主催で行うものは年 2 回、

平成 26 年度から継続して出展を依頼されたイベントもあり、平成 27 年度は計 3 回行った。イベント毎に目標を設定し、生徒に参加してもらった。様々な場所、年齢、人数、指導方法に対応し、それに適したオリジナル作品、体験内容を提供するように心がけてきた。

表 1 ものづくり教室の一覧（平成 26, 27 年度）

月日	行事/対象/人数	作品/体験内容/開催場所
H26 8/14	出前授業 保育園5歳児 約 40 名	作品:ひまわりオブジェ 体験:紙漉き 開催場所:保育園
H26 11/23	ものづくりフェスタ 小学生低学年 約 40 名	作品:ひまわり行灯・がん灯 開催場所:イオンモール新瑞橋 補足:がん灯=蠟燭の携帯行灯
H27 8/8,9	子ども職人工房 小学生高学年 各コース 10 名 計 40 名	作品:ひまわり行灯、オイル万華鏡づくりなど(4コース) 体験:紙漉き、搾油、人工いくら 開催場所:生涯学習センター
H27 11/1	区民祭り 中学生以下 約 40 名	作品:オイル万華鏡 体験:人工いくら 開催場所:日本ガイシホール 補足:人気の高いコースを実施
H27 11/27 ※	ものづくりフェスタ 中学生以下 約 50 名	作品:オイル万華鏡 体験:人工いくら 開催場所:イオンモール新瑞橋 補足:グループ指導(6名)

※ イオンモール新瑞橋が主催

イ) 地元商店街との交流

平成 26 年に行った「ものづくりフェスタ」で隣のブースだったという縁から交流が始まった。本校近くにある笠寺商店街を活性化するため有志が集まった人たちが、様々なプロジェクトに分かれ活動を行っている。そのため経済的・人的な制約が多く、多くの活動でボランティアを必要としていた。

「みつばちプロジェクト」は、ビルの屋上にみつばちの巣箱があることに驚き、蜜絞りの体験などもできるので参加する生徒も多かった。

「亀池再生プロジェクト」は、笠覆寺（笠寺

観音)にある通称亀池の生態調査や浄化活動などを行っている。本科に通じる分野でもあり生徒の関心も高かった。なお、このプロジェクトは、名古屋市の助成金活動の一環でもあり、生徒は責任感をもって取り組んでくれた。

これらの交流に約 30 名以上の生徒が参加した。最初は消極的だった生徒も徐々に主体的・積極的に活動をするようになり、特に就職面接では活動内容などについて質問されたケースもあり、企業から一定の評価を頂けたのではないかと考えている。さらには、これらの活動を通じて、生徒の社会人基礎力の向上に寄与できたのではないかと自負している。

表 2 地元商店街との交流一覧(平成 27 年度)

プロジェクト	人数	内容
みつばち(年4回)	約 20 名	巣箱の防虫、紙芝居、有機ビーカーガーデン作りなど
亀池再生(年3回)	約 10 名	生態調査、水質測定、ワークショップなど(名古屋市助成金活動)
その他(複数回)	約 20 名	囲碁・将棋サロン、Nゲージ、寄席などのイベント補助など

※ 人数の重複あり

ウ) メディアでの紹介例

紙媒体では 4 回、その他名古屋市の広報などで紹介して頂いた。特にフリー雑誌(図 1 参照)では表紙の撮影があり、カメラ、照明などの機器を目の当たりにして、生徒たちも緊張した面持ちで参加した。



図 1 表紙

表 3 メディアでの紹介例

年月	詳細
H26/10	中日新聞折り込み紙「ナンタン」
H26/11	地元フリー雑誌「南区フリモ」、表紙・巻頭特集
H27/10	笠寺商店街「かんでら新聞」
H27/11	中日新聞折り込み紙「ナンタン」

エ) コンテストへの挑戦

私的な思いであるが、課題研究を通じて企業との共同研究などができないか考えている。生徒には、1 人 1 テーマを担当させ責任を持って取り組んでもらった。この 2 年間は、コンテストの難易度、研究の方向性を確認している段階

であるが、幸い一定の成果を収めることができた。AIT サイエンス大賞で「努力賞」を受賞、京都産業大学での発表、AEON eco-1 グランプリで一次予選通過など、発表を行った生徒は自信に繋がったのではないかと思われる。

また、率先して個人研究にも取り組んできた。幸い「平成 27 年度産業教育改善に関する特別研究」において、補助金(短期)を頂くことができた。今後も責任をもって研究活動に取り組んでいきたい。

表 4 コンテストなどの一覧(平成 25~27 年度)

名称	人数	テーマ/結果
地域の伝承文化に学ぶコンテスト	4名	有松絞り、Tシャツ作成 結果:落選
高校環境化学賞	5名	ひまわり Ca・Fe 活動 結果:参加賞
第 11 回高校生化学グランドコンテスト	2名	笠寺観音亀池の水質調査① 結果:諸事情により辞退
第 14 回 AIT サイエンス大賞	4名	笠寺商店街の活性化② 結果:努力賞受賞
第 4 回 AEON eco-1 グランプリ	2名	ひまわりの絆③ 結果:中部ブロック二次審査進出
高校生技術・アイデアコンテスト全国大会	5名	オイル型万華鏡 結果:受賞なし
第 8 回益川塾シンポジウム(京都)	7名	3テーマ(①~③)、ポスターセッションに参加
全国ユース環境活動発表大会	2名	eco-1 グランプリの内容に準拠 結果:落選

オ) 資格への挑戦

情報処理関係の資格を敬遠する傾向が強かったので、実技に特化した検定(日本情報処理検定協会)を選んだ。その理由は、受験料が比較的安く、顕彰制度があり生徒の意欲・関心も高かったためである。また、本校で受験ができるように準備を進め、約 20 名の生徒が受験した。

3 今後の展望

ひまわりの種から始まった交流もやっと芽が出た段階である。発芽するまでに多くの方々の協力を頂いた。この場を借りて改めて、心からお礼申し上げます。

「創業は易く守成は難し」と言われるように、この 2 年間は勢いに乗り手探り状態であった。今後も地道な努力を惜しまず生徒指導・研究活動に取り組んでいきたい。